

# 世界の腕時計

WORLD WRIST WATCH

WORLD M O O K

No. 139 ワールド・ムック1193  
平成31年4月15日発行  
(通巻1193号)

メカ、デザイン、歴史、どれをとっても  
腕時計ほどおもしろいものはない!

WORLD WRIST WATCH  
WWW

【特集】2019年ブランド別新作情報【ジュネーブ編】  
あるべき姿に立ち返り  
継続的発展を目指す

【話題作を検証】

ヴァンクリーフ&アーペル「ポエティックアストロノミー」

ブレゲ「マリオン・クロノグラフ 5527」

ユリスナルダン「エグゼクティブ・トゥールビヨン・スケルトン・ウリー・ホイール」

【新生ブランド】

「レゼルボワール」&「パリス・ダコスタ・ハヤシマ」



エポスのフルカレンダー・ムーンフェイズ・モデル3391ナイトスカイと3440ビッグムーン

## 夜空を思わせる文字盤の上で満ちては欠ける月の魅力

文字盤の上で月相を示すムーンフェイズ・ウォッチは宇宙を感じさせてくれる魅力的な時計だ。深いブルーのダイヤルが夜空を思わせるエポスの「ナイトスカイ」もそのひとつである。そして昨年にはそのムーンフェイズを大きくした「ビッグムーン」が登場した。



ポインター式のデイトに加えて、デイトとマンスを備えたフル・カレンダーの3391ナイトスカイ。6時位置のムーンフェイズは大人しめで、ケース・サイズは41mm。価格は23万8680円。

の一定時刻、つまり12時における瞬間での月齢を表すだけである。いや、小難しい話はやめよう。ムーンフェイズの素晴らしい

しさは、ちつぽけな文字盤上であって、ギアの連結によって毎日毎日ひとコマ、つまり1/29・5歯ずつ動き、天空にある月のカタチを知らせてくれることだ。しかもそれは、雨天でお月さまが見えない時にも月相を健気に知らせてくれる、この上もなく素晴らしい仕組みなのである。

さて、このムーンフェイズを装備した腕時計は数多くあれど、個人的には深めのブルー・ダイヤルから夜空の雰囲気を感じ取ることができ、しかも極めてリーズナブルなエポス3391ナイトスカイが真っ先に脳裏に浮かぶ。2011年に登場したこのムーンフェイズ・モデルは、星をちりばめた文字盤上を斜めに走る2条の稲妻(?)の上に、デイトとマンスの両表示窓を巧みにセットするとともに、周囲にデイトを巡らせたフル・カレンダー・ウォッチだが、嬉しいことにこ

のモデルをブラッシュアップした新作がデビューした。

最大の変更点は、大型のムーンフェイズを装備した文字盤である。もちろん、ムーンフェイズを含めたデイトやマンスの位置は変更されており、さらにボックス型のインデックスが新たにつけられた。奮っているのはダイヤル上の星とムーンフェイズにはルミナス加工が施されており、暗闇ではぼつと光るから面白い。さらに僅かに大きくなった直径42mmのケースは、従来のステンレス・スチールだけでなくローズゴールド・カラーのPVD加工が選べるようになった。またダイヤル・カラーもこれまでのダーク・ブルーに加えてダーク・グレーが追加された。

5気圧防水でシースルーバックを備えたブレン・ケースに積み込まれるのは、新しいビッグ・ムーン・モジュールを搭載した中3針式オートマティックのETA 2892で、21石、2万8800振動、約42時間のパワーリザーブを備える。

月の満ち欠け(朔望)をダイヤル上で表

現するムーンフェイズは、数ある腕時計のファンクションの中で、極めてユニークな機構である。その理由は、時計本体が1日24時間、つまり8万6400秒のサイクルで作動し続ける中で、新月から満月を経て再び新月へと戻る「朔望月」のサイクルは約29・5306日と、異なる2種類の動きをひとつのムーブメントで生み出

しているからだ。

しかし、その月の動きは23・5度なる地軸とその細かなぶれや、季節によって変わる月の軌道などによって一定のサイクルではなく、通常のムーンフェイズ機構では……あまり正確でなくとも許されてしまうのである。第一、地球と月は絶えず動いており、たとえば「今日は月齢が14・0」と言っても、それはその土地ごと



新たに入荷した3440ビッグムーン。僅かに拡大されたケースはブレン・ベゼルを装備しており、1時位置のビッグ・ムーンフェイズをはじめ、ダイヤル周りにも手が加えられた。左がSSケース+ダーク・ブルー・ダイヤル、右がローズゴールド・カラーPVDケース+ダーク・グレー・ダイヤルで、価格はそれぞれ24万6240円と25万7040円。